

平成29年度

**学校評価結果報告書
(中間評価)**

平成 29 年 10 月

広島県立河内高等学校

目 次

様式3 「平成29年度自己評価シート(中間評価)」 …… 2

様式4 「平成29年度自己評価シート(中間評価まとめ)」 … 5

様式7 「平成29年度学校関係者評価シート(中間評価)」 … 6

自己評価シート(中間評価)

校番	50	学校名	広島県立河内高等学校	校長氏名	西山光人	全日制	本校
----	----	-----	------------	------	------	-----	----

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
1 キャリア教育の視点から基礎基本の定着を図り、生徒の学習意欲を高める学校				
質の高い進路指導を進め、進路実績の向上を図る。	①進学指導の充実 ・進学希望者に対する個別指導と補習の実施 ・学年会を中心とした補習環境の整備 ②就職指導の充実 ・入学時からの段階的な礼節・マナー指導 ・面接指導の工夫と一般教養定着指導 ・就職希望者へのJSTIによる面接指導及びJST・進路指導部員・3学年による企業訪問 ・進路情報会社等の外部講師による進路講演会の実施 ・求人動向の早期把握と企業訪問の拡充及びWebを活用した企業との連携 ③チューター制の積極展開による高い目標の達成にむけて努力する学習集団の育成 ④2年次からの四者懇談会及び進路検討会議の実施 ⑤生徒・保護者に対する進路情報の計画的・効果的な発信 ⑥進学及び就職に関する模擬試験の充実	B	ほぼ全ての項目について予定どおり実施しているが、内容に検討の余地がある項目もある。第一希望での内定率・合格率を高めるための方策について、次年度に向けて見直しを進めていきたい。	進路指導
授業改善により基礎基本の徹底と学力の向上を図る。	①アクションプランを意識した授業づくりの推進 ②目標を明示した授業の実施 ③授業規律の確立と学習環境の整備 ④広島県高等学校学力調査の分析と通過率向上のための取組の充実 ⑤家庭学習調査の実施 ⑥学年の実態に応じたSHRの活用 ⑦やりきらせる指導 ⑧検定試験等に積極的にチャレンジする指導	B	ほぼ全ての項目について実施できているが、家庭での学習時間の確保に向けて、更なる取組が求められる。	教務

【評価結果の分析】

○(進路指導)

就職・進学等の指導をより効果的に行うための環境整備および各業務の取組が、生徒に還元できているかどうか検討が必要である。

○(教務)

アクションプランを意識した授業づくりに関しては、公開研究授業、校内授業公開の取組を加え、今年度は他校の実践に学ぶ取組も行っている。また、授業評価アンケートでは、「授業のめあてが示されている」は87.7%(88.1%)、授業満足度は86.3(85.6%)、「授業規律が守られている」は80.9(77.4%)であった。()内は昨年度。

【今後の改善方策】

○(進路指導)

ガイダンスの内容の充実も図るとともに、他のさまざまな業務について進路指導部員および各学年会との連携を図り、生徒への指導を継続する。

○(教務)

授業アンケートの結果はまずまずであったが、河内高校の育てる生徒像を元に各教科の特性を生かしたカリキュラム研究を行っていく。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
2 特別活動や体験活動の充実を図り、規範意識を高め、生徒の豊かな心を育む学校				
身だしなみ・挨拶指導を徹底して生徒の社会性を高めるとともに、道徳教育の充実を図り、生徒の問題行動を減少させる。	①問題行動の未然防止を主とした指導の徹底 スローガン:「いじめ 0(ゼロ) 違反 0(ゼロ) マナーアップ～いきいき、はつらつ さわやかな河内高生～」 ・チケットを用いた服装・頭髪指導の継続 ・定期的な校外・校内巡回指導の実施 ・1年生オリエンテーション週間(1・2学期初め) ・制服セミナーを利用した指導 ・ソーシャルスキルトレーニングの実施 ・期限や時間管理に対する意識の向上 ②規範意識や道徳心を高めるためのHR活動の実施(各クラス年間2回) ③感性を高める教育活動の積極的展開 ④組織的な教育相談体制(含スクールカウンセラー)の充実 ⑤ボランティア活動や清掃活動の推進	B	ほぼすべての項目について実施できているが、HRを使った生徒の規範意識を高めるための取組が十分ではない。	生徒指導 総務
部活動を活性化により、意欲的で心豊かな生徒を育成する。	①1年次におけるアルバイトの原則禁止。 ②部活動数の整理と充実 ・部顧問の複数体制を確立し、指導の充実を図る。 ・運動部への加入を促進する。 ③外部指導者の積極的な招聘や活用 ④部活動表彰や成果披露の場の積極的設定 ⑤各種大会・コンクール等に積極的にチャレンジする指導	B	ほぼすべての項目について実施できているが、部活動加入率については課題を残した。	総務

【評価結果の分析】

○ (総務)

- ・今年度は1年生を対象としたクラブ紹介の後、全員に入部届を配布し入部を学年で促すよう取り組んだ。そのため1年生については少し増加傾向にある。しかし、2年生になりアルバイトを始め部活動をやめる生徒が今年度多かったためか、全体の加入率は昨年度から3%減少して56%になった。
- ・今年度も弓道部、卓球部、茶華道部に外部から指導者を招いて活動の充実を図った。
- ・各種大会・コンクール等の入賞者は中間評価時点で10と昨年度並みであった。また、全校集会で定期的に表彰伝達を行い自己肯定感を高め生徒の意欲増進に努めた。

○ (生徒指導)

- ・年度当初に駅周辺での特別指導が続き、以降毎朝駅でも挨拶指導を続けている。その成果もあり、登下校中も含めて全体的に落ち着いた雰囲気になってきている。

【今後の改善方策】

○ (総務)

- ・2年生になりアルバイトを始めても部活動は継続できるものであると考える。部活動を継続しないのは生徒の部活動への満足度や重要性が低いからかと思われる。引き続き活動が停滞することがないように指導の充実を図る。
- ・部活動に限らずさまざまな公募を積極的に教科担当に紹介し出品を促す。

○ (生徒指導)

- ・教育的な効果を最優先して、時期内容を考えて、規範意識や道徳心や感性を高める取組を実施する。
- ・進路指導に絡めて自分がどういふつもりだったかではなく相手がどのように感じるかを意識させる取組を継続する。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
3 積極的な情報公開や地域交流を推進し、地域から信頼され選ばれる学校				
地域・保護者への積極的な情報公開を行う。	①ホームページ原稿を各部分担し、組織的かつ円滑なアップロードを図る。 ②警報発令時の対応を迅速に発信する。 ③ホームページ使用マニュアルを作成し、アップロードが可能な教職員の増員を図る。 ④生徒・保護者に対し、計画的に広報紙を発行し、学校のシステムや思いを発信して行く。	B	ほぼすべての項目について実施できているが③の教職員の増員までは至っていない。	総務
地域・保護者の学校行事への積極的な参加を図る。	①昨年度の事後アンケートをもとに、文化祭・体育祭等の内容の充実・改善を図り、来校者の満足度を高める。 ②地域や保護者の来校する機会の増加を図る。(姉妹校交流報告会、吹奏楽部ミニコンサート、公開研究授業、常時授業参観等) ③ホームページ、PTA活動等を通じて事前広報活動を積極的に行う。	A	ほぼすべての項目について実施できているが、内容の改善も進み、地域・保護者の満足度の向上につながっている。	
生徒の地域活動への積極的な参加を図る。	生徒会執行部を中心に福祉祭り、リバーサイドフェスティバル等の地域行事への参加を行う。	A	リバーサイドフェスティバルをはじめ多岐にわたり積極的な地域活動への参加ができた。	

【評価結果の分析】

- 今年度ホームページにアクセスカウンターを設置しホームページ閲覧者数を確認できるようにした。予想外に本校のホームページ閲覧者が多いことに驚いた。そのことで改めてホームページの重要性を再確認し内容の充実を図る必要があると感じた。
- オープンスクールのアンケートでは学校の雰囲気について、大変良い、良いという回答が全体の 100%、文化祭のアンケートでは大変良かった、まあまあ良かったという回答が全体の 72%という結果で、全体的に高い評価をいただいた。
- 生徒会執行部を中心として地域活動への積極的な参加態勢が数年をかけて継続してできている。これらの取組は地域からも高い評価をいただいている。

【今後の改善方策】

- 教職員の異動によって更新が滞ることのないよう、今後も総務部全員体制でホームページ原稿作成を分担するとともに、部員全員がアップロードできるように、研修会等を実施し、常に後継者の育成を視野に入れた取組を行う。
また、内容の充実を図り、行事終了後早めのアップロードするように取り組む。
- アンケートでいただいたさまざまな意見をもとに来年度に向けて取り組み、今後の行う学校行事の活動についてもいかしていく。
- 現在の好評な取組を継続実施するとともに、地域活動への積極的な参加体制を生徒会を中心に、地域の自治組織とも連携し、つねに新しいアイデアを検討しながら進めていく。

平成29年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	50	学校名	河内高等学校	校長氏名	西山 光人	<input checked="" type="checkbox"/> 全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	----	-----	--------	------	-------	---	---

1 評価結果の分析

(1) キャリア教育の視点から基礎基本の定着を図り、生徒の学習意欲を高める学校

就職・進学等の指導をより効果的に行うための環境整備および各業務の取組が、生徒に還元できているかどうか検討が必要である。

アクションプランを意識した授業づくりに関しては、公開研究授業、校内授業公開の取組を加え、今年度は他校の実践に学ぶ取組も行っている。また、授業評価アンケートでは、「授業のめあてが示されている」は 87.7%(88.1%)、授業満足度は 86.3(85.6%)、「授業規律が守られている」は 80.9(77.4%)であった。()内は昨年度。

(2) 特別活動や体験活動の充実を図り、規範意識を高め、生徒の豊かな心を育む学校

今年度は1年生を対象としたクラブ紹介の後、全員に入部届を配布し入部を学年で促すよう取り組んだ。そのため1年生については少し増加傾向にある。しかし、2年生になりアルバイトを始め部活動をやめる生徒が今年度多かったためか、全体の加入率は昨年度から3%減少して 56%になった。また、今年度も弓道部、卓球部、茶華道部に外部から指導者を招いて活動の充実を図った。

各種大会・コンクール等の入賞者は中間評価時点で10と昨年度並みであった。また、全校集会で定期的に表彰伝達を行い自己肯定感を高め生徒の意欲増進に努めた。

年度当初に駅周辺での特別指導が続き、以降毎朝駅でも挨拶指導を続けている。その成果もあり、登下校中も含めて全体的に落ち着いた雰囲気になってきている。

(3) 積極的な情報公開や地域交流を推進し、地域から信頼され選ばれる学校

今年度ホームページにアクセスカウンターを設置しホームページ閲覧者数を確認できるようにした。予想外に本校のホームページ閲覧者が多いことに驚いた。そのことで改めてホームページの重要性を再確認し内容の充実を図る必要があると感じた。

オープンスクールのアンケートでは学校の雰囲気について、大変良い、良いという回答が全体の 100%、文化祭のアンケートでは大変良かった、まあまあ良かったという回答が全体の 72%という結果で、全体的に高い評価をいただいた。

生徒会執行部を中心として地域活動への積極的な参加態勢が数年をかけて継続してできている。これらの取組は地域からも高い評価をいただいている。

2 今後の改善方策

(1) キャリア教育の視点から基礎基本の定着を図り、生徒の学習意欲を高める学校

ガイダンスの内容の充実も図るとともに、他のさまざまな業務について進路指導部員および各学年会との連携を図り、生徒への指導を継続する。

授業アンケートの結果はまずまずであったが、河内高校の育てる生徒像を元に各教科の特性を生かしたカリキュラム研究を行っていく。

(2) 特別活動や体験活動の充実を図り、規範意識を高め、生徒の豊かな心を育む学校

2年生になりアルバイトを始めても部活動は継続できるものであると考える。部活動を継続しないのは生徒の部活動への満足度や重要性が低いからかと思われる。引き続き活動が停滞することがないように指導の充実を図る。

部活動に限らずさまざまな公募を積極的に教科担当に紹介し出品を促す。

教育的な効果を最優先して、時期内容を考えて、規範意識や道徳心や感性を高める取組を実施する。

進路指導に絡めて自分がどういふつもりだったかではなく相手がどのように感じるかを意識させる取組を継続する。

(3) 積極的な情報公開や地域交流を推進し、地域から信頼され選ばれる学校

教職員の異動によって更新が滞ることのないよう、今後も総務部全員体制でホームページ原稿作成を分担するとともに、部員全員がアップロードできるように、研修会等を実施し、常に後継者の育成を視野に入れた取組を行う。また、内容の充実を図り、行事終了後早めのアップロードするよう取り組む。

アンケートでのさまざまな意見をもとに来年度に向けて取り組み、今後の行う学校行事の活動についてもいかしていく。

現在の好評な取組を継続実施するとともに、地域活動への積極的な参加体制を生徒会中心に、地域の自治組織とも連携し、つねに新しいアイデアを検討しながら進めていく。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・学校経営目標に対する行動計画が多すぎるので、重点化して絞り込む。
- ・生徒数の減少にとめない、検定試験を地元中学校と合同で実施できるか検討を進める。

校番	50	学校名	河内高等学校	校長氏名	西山 光人	全・定・通	本・分
----	----	-----	--------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を持つ生徒への配慮が見られる計画が良い。 ・次世代を見通した適確な目標設定である。 ・いろいろな面で細かい計画がなされている。 ・必要に応じて変更を加えられて進化しているのが良いと思う。行動計画はしぼり込む方が良い。 ・昨年度の実績だけでなく、今現在の生徒の状況を踏まえて、目標・指標・計画がなされていた。また、「ホームページの更新回数」から「ホームページの閲覧者数」に指標を変更するなど工夫がなされていた。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大変厄介な課題(テーマ)ですが、「評価」をどうとらえるか。 ・目標値に向かって諦めない姿勢が強く感じられた。進捗状況評価も適切だと思われた。 ・本年度後期の実績でより目標に近づくよう願っています。 ・ホームページのカウンター設置はとてもよかった。チューター制の生徒満足度についても評価が見たい。
目標達成に向けた取り組みの適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全領域において“授業の目当て”を板書し、明確にする。加えて授業規律を守らせる。などこの取り組みは、小・中・高の連携の深まりが見られ大変良い傾向である。 ・各分掌の説明を聞いて、いずれも目標に対する取り組みは分かり易かつ明確に実施されている。 ・体育祭など、土日に行事があると、参加が難しい。 ・様々に工夫した行動計画があげられていて素晴らしいと思う。個々の計画について担当責任者がどのように具体的な手立と進捗評価を進められているかが見えるとよい。 ・目標の半分に達していない項目がいくつかあった。 ・地域・保護者への積極的な情報公開と学校行事への積極的な参加を図る取組でとても良い結果が出ている。この結果から、入学したい生徒や入学させたい保護者が増えることを期待します。
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「評価」のとらえ方、つまり“結果”とした評価か・・・目標達成までの“過程(営み)”を“評価”として捉えるのか・・・。 ・生徒の相談窓口として、しっかり各教員が生徒の思いを汲んでいて、おごりもなく正直かつ謙虚な結果の分析だと思えます。 ・評価結果の分析というよりは、現状を中間報告したような内容が多い。行動計画の中の～の取組により～というアンケート結果を得たとすればよいと思った。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「継続は力なり」に拘わるわけではないが、各目標達成のためにも焦らず、急がず、日常の実践を大切にしたい。 ・育てる生徒像を元に研究を行っており、おのずから改善方策もぶれていない様である。 ・各部の改善方策が2点ほどにまとめられている。逆説的であるが、この項目に応じた行動計画に絞り込んでいけばよいと思う。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導は“自己実現”ととらえている。自己実現をはかる生徒目線での取組みこそ「自己肯定感」を培う最も大切なものだと思います。生徒一人ひとりの個性をどう伸張させるかの取組みが地味だけど良く分かる。 ・学校長の方針が各教員に理解され、適切に生徒指導ができています。生徒の満足度もさらに上がっていくと思います。 ・とても適切であると思います。今後の活躍を期待しています。 ・文化祭や体育祭に参加して思うことは、学校組織の素晴らしさです。生徒が落ち着いて前向きにそして楽しそうに取り組む姿が見られました。高校生活3年間を元張りぬく生徒が 100%となることを願っています。 ・各項目の行動計画が5～8と多い。今年度重点的に全教職員で取り組むものを2つくらいに絞り込んだ方が分析もしやすくなり、しっかりとした評価ができるのではないかと。